

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

CONTENTS

| | |
|-------------|---|
| 館長のつぶやき | 2 |
| BIREKI・レポート | 3 |
| いさはやの民謡 | 4 |
| いさはやの歴史 | 5 |
| 美術の部屋 | 6 |
| 古文書の部屋 | 7 |
| お知らせ | 8 |

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.11



現存する二連アーチの階段式石橋で「日本一」長く、形が美しい、諫早眼鏡橋

館長のつづやき

諫早のこんな数字

▼去る5月1日、諫早市美術・歴史館来館者が10万人を達成した。当初の想定をはるかに超えるスピード。特に地元の小中学生等の作品発表は、親御さんの来訪に拍車をかけてくれるようだ。ところで、今年の「館長講座」は、全体テーマを「諫早のすがた」とし、その第一弾は、6月初めに諫早の諸事を数字等で紹介した。人口、面積、就業構造等、あるいは時系列、旧市町別データなど基本的数値を紹介したが、例えば諫早の面積はおおむね福岡市と同じ、人口は沖縄県沖縄市とほぼ同じであることとか、諫早の人口は全国では179番目、九州では12番目など、要は〈だからどうした〉的なデータも紹介。

▼むしろ若干の関心と呼んだのは、諫早の自慢とでもいえそうなデータであった。例えば、「諫早の長崎一、日本一」とか「選ばれた諫早」である。前者は、長崎県が平成20年に編集の『長崎の日本一、世界一』から抽出したもので、諫早公園のミサオノキ、小長井のオガタマノキは共に日本一であること、雨が漏らない傘用の布地は諫早出身の和田半の発明、諫早の眼鏡橋は二連アーチ式石橋では日本唯一など、また、前掲書には紹介されていないが、独自調査により、諫早湾の干満の差6メートルは多分日本一、一級河川で最も短い本明川は、長崎県下の全河川中最も長い河川とか、干拓堤防道路

延長8.25キロは多分日本一、そして水稻栽培面積(作付)では諫早が一番等々であることを紹介。ついでながら、ビワは長崎が日本一、馬鈴薯は全国第2位、アスパラガスが第4位なども紹介してみた。

▼また、「選ばれた諫早」については、「名水百選」の轟溪流の水はじめ「疎水百選」の小野用水、上山公園の「森林浴の杜100選」「歴史の道百選」の長崎街道等など結構自慢できそうなものが足元にあることを紹介できた。ついでながら諫早の観光客実態(消費額など)とか、諫早の所得ランクなども紹介。

▼考えるまでもなく、我々は数値をそのまま見てもそれが「何か」が理解できないことが多い。歴史とか年代もある面似ている。むしろ比較することでいろいろの「判断」ができる。高いとか大きいとか広いとか古いとか。でも、それは良し悪しを抜きにして「序列」を生み出してしまう恐れがある。今回の講座で紹介の各種データは、基本的に諫早市を長崎県、大村市、平戸市と並べ、またデータによっては三市交流を意識して出雲市、津山市との比較もした。しかし、改めて〈だからどうした〉の消化不良が頭をもたげる。本当にデータを扱うことは難しいということを実感。

(館長・鈴木勇次)

BIREKI・レポート

VOL.2 諫早市と出雲市は〇〇なんです！



諫早市が島根県出雲市・岡山県津山市と「友好交流都市」を締結しているのを知っていますか？出雲と言えば「神々が集う縁結びの聖地」。津山と言えばB'z 稲葉浩志の出身地、そしてB級グルメ「ホルモンうどん」が有名ですね。

締結35周年を記念し、三市の歴史や文化を紹介する「交流展」が今年10月14日～11月26日まで出雲文化伝承館（写真上）で開催されます。現在、「アーセルテレカラフ」・「長崎港御出陣図」など、他市にはない「諫早ならではの！」の出品資料を選定中です！！



▲アーセルテレカラフ



▲長崎港御出陣図（部分）

そして…。早いもので開館から3年が経過しました。「新収藏品展」開催中の5月1日には来館者数が10万人に到達！！写真のお二人（一番右は館長です…。）に、記念品として、諫早ゆかりの洋画家野口彌太郎作「ヴェニス」の複製を贈呈しました。あっ、と言う間の3年でした…。



いさはやの民謡

VOL.2 祝い歌

前号は作業歌でしたが今回は祝い歌を紹介します。

祝い歌は、儀礼や行事のなかで歌われるもので、中でも「あんば節」は『女祝い歌』『女お謡』とも言われ、諫早の祝い歌の中でもっとも親しまれています。

女祝い歌というように、これは女性が歌うものでした。主婦は「あんば節」を歌えるのは当たり前で、よく祝儀の席で歌っていました。「あんば節」が歌われないと「祝い（「あんば節」）もあげないで・・・」と言われたもので、それほど祝いの席にはなくてはならない歌でした。

低い音調のゆっくりとした、まさに祝いの席にふさわしい歌です。

- 1 祝いめでたの／若松さまよ／枝も栄えて／葉も繁る
- 2 ここのご亭主は／福よなご亭主／潮の満つごと 福の寄る
- 3 届け／届けと末まで届け／末は鶴亀、五葉の松

（長田町）

あんば節はここに紹介したほか、地区により歌詞に多少の違いがありますが、祝いの席にふさわしい詞です。また「しらすぎ」もよく歌われた女祝い歌でした。

しらすぎの／今年はじめて伊勢まいり／伊勢のまちまちゃ広けれど／一夜の宿も借り出さぬ
浜辺に下りて松の木に／一の枝かよ／二の枝か／三の小枝に宿をとり／松葉搔き寄せ須をつくる
十二の卵を産みそろえ／十二ひとえに目をあけて／親もろともに発つときは／金のつるべに長柄
の柄杓
飲めや大黒／歌えやえびす／なかの酌とりや福の神／なかで酌とりやよか嫁女／なかで酌とりやよ
か嫁女

（小川町）

また、祝い歌には毎年の行事に歌うものもあります。

正月、市内のあちこちで見かけたのがもぐら打ちです。子どもたちが主役で、前の年に嫁が来た、子どもが生まれたといっためでたいことがあった家々をまわってもぐらを打ち、このとき祝いの歌をあげます。



ところは高砂の尾上の松も年ふりて／老の波も寄り来るや
木の下陰の落ち葉かくなるまで／命ながらえて／なおいつまでか／生の松
…中略…

カワセミ殿よ セミ殿よ 葦の枯れ穂に昼寝して アユをとりたる夢を見て
ごぞっと起きて 川のなかちゃぼりん

…以下略…

（平山町）

もぐら打ちのうたにはこのように愉快的な詞を交えたものもあります。

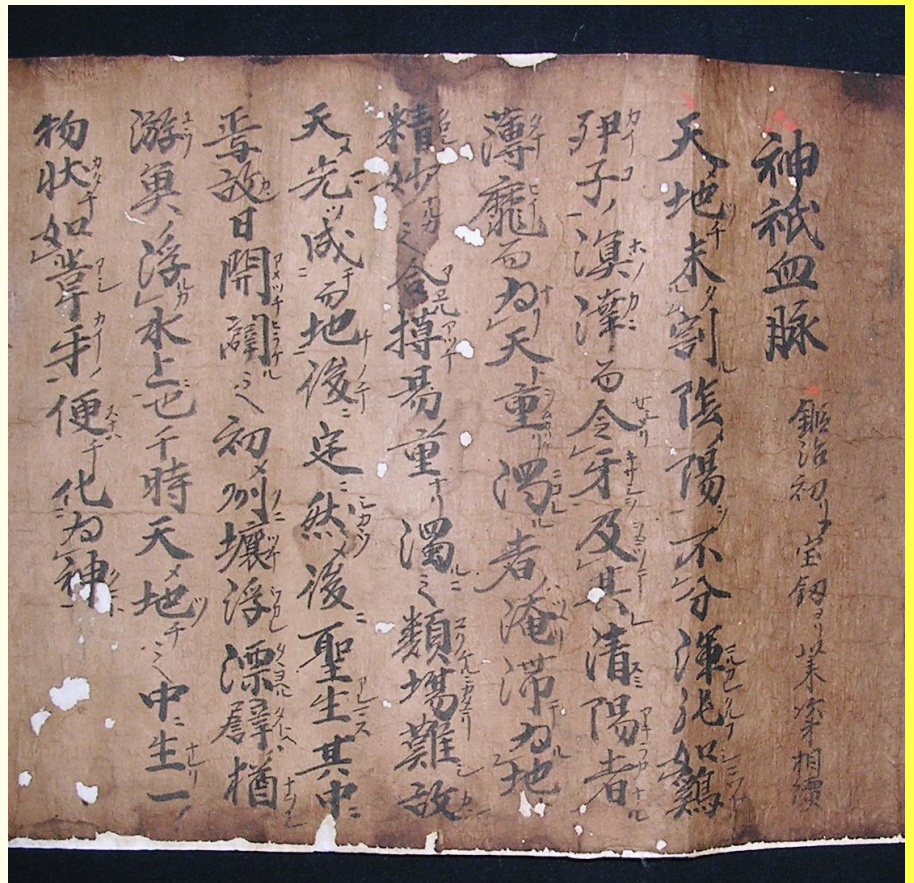
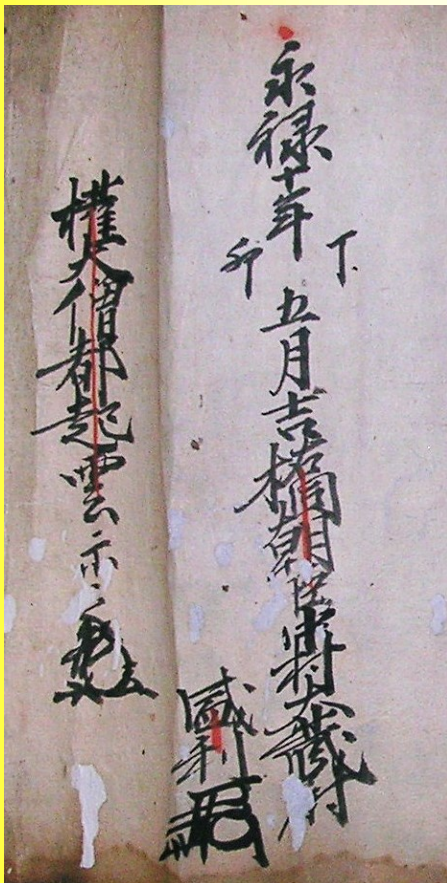
神祇血脉（じんぎけちみやく）

紙本墨書／永禄10年（1567）／縦19.1cm×横724.1cm

諫早には南北朝時代に「則末」（のりすえ）、江戸時代に「宗次」（むねつぐ）などの刀鍛冶がいました。本史料は永禄10年(1567)に作成された刀鍛冶の秘書です。内容は天の神と地の神の系譜、神代三劔と鍛冶との関わりなどが書かれており、巻末には「永禄十年丁卯五月吉橋朝臣中村大蔵尉盛利」と作成年代と作成者が書かれています（写真左下）。

『西郷記』に「純堯（西郷）代、柴田村の内、平野(場所不明)と言う所に、**中村大蔵**とて刀作りの鍛冶有り」、「大蔵伝授の**鍛冶の秘書**、于（ここに）今持ち来たり、これあり」と記載されています。『西郷記』に記載の中村大蔵＝中村大蔵尉盛利、鍛冶の秘書＝神祇血脉と思われれます。戦国時代、伊佐早を治めていた西郷氏の史料は皆無に等しく、また諫早における刀鍛冶を研究する上でとても重要な史料です。

※『西郷記』（江戸時代編纂）には伊佐早を治めていた西郷氏、西郷氏と龍造寺氏との高城での攻防などが書かれています。



林田重正「山」



林田重正「山」1986年、水彩・色鉛筆・紙、諫早市美術・歴史館蔵

柔らかな色彩で山の穏やかな姿を表現した作品があります。北高来郡諫早町船越名（現船越町）生まれの洋画家、林田重正（はやしだ・しげまさ 1918～1997）の作品です。21歳の時上京。美術工芸学院に入学し、実技を日高昌克、鳥海青児等に師事しました。

東京世田谷という都市に居住しながら「月に一度は山を見ないと不安になる」というほどの山好きであった林田は、しばしば屋外写生に出かけ詩情豊かな山の絵を数多く残しています。くもりのない清らかな空気をまとった作品は、林田の対象を見つめる暖かな心情をそのまま表しているようです。

古文書の部屋

今年度4月より諫早市美術・歴史館で専門員として勤務することになりました、長崎市出身の江口です。諫早の歴史を市民の皆様にわかりやすくお伝えできるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、古文書の読み方の基本となる文字の使われ方を取り上げます。

『(漢)数字』の表記

古文書によく登場するのが『(漢)数字』です。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 百 千 万

現代では上記のように書くことが一般的です。しかし、近世の古文書では一や二、十のように棒線をあとから加えるなどして数を改ざんされる恐れがある文字は、間違いが起こることを防ぐため、以下のような文字を使っています。

壱 弍 三(参) 四 五 六 七 八 九 拾 百 千 万(萬)

では、一や二のような表記はどのような用途があったのでしょうか。代表的な使用例を挙げると以下ようになります。

- 【一】・数量を表す文字としてはあまり用いられない。
 - ・年月日では十一年、十一月などに限定。他は元年・正月・朔日など。
 - ・ひとつ何々、と頭につける場合。
 - ・一札、一筆啓上 などの熟語の表記。

- 【二】・年月日など、改ざんされる恐れがない場合。

十の字は、正式な帳簿などでは避けるのが普通でした。また、20、30と書き表すときは弍拾、参拾などの他に、十を横に並列させた記号のような表記の『廿(にじゅう)』や、『卅・卅(さんじゅう)』を使うことも多いです。

館企画展

諫早大水害から60年 水害×現代美術＋防災展

今年、昭和32年の諫早大水害から60年の節目にあたります。

災害の記憶を風化させることなく、自然への畏敬の念と災害への備えの気持ちを深めることを目的に、現代アートを交えた企画展「水害×(かける)現代美術+(たす)防災展」を開催します。

期 間／7月1日(土)～31日(月)
10:00-19:00(最終入場18:30)
※毎週火曜は休館

《25日(火)は開館、26日(水)は臨時休館》

会 場／美術・歴史館(1階ホール、2階企画展示室・研修室)

観覧料／無料

内 容

[水害]水害関連写真パネル約100点のほか、諫早の水害史年表などを展示。また、当時の記録映像を上映。

[現代美術]長崎を中心に活動する「RING ART」をお招きし、60年の節目にふさわしい現代アート作品の展示、ワークショップなどを開催。

[防災]国土交通省や長崎県の防災パネル、長崎地方気象台の資料などを展示。



RING ART イベント

◆折り鶴ワークショップ 7/1(土)・2(日)

両日とも①10:00～12:00 ②13:00～15:00

◆丸山常生アート・パフォーマンス7/25(火)

18:00～19:00

MARUYAMA Tokio(美術家・パフォーマンスアーティスト)

※両イベントとも、会場は美術・歴史館エントランスホール。
申込不要。詳しくは、美術・歴史館ホームページを。

― 編集後記 ―

今さらながら……

アメトリークがきっかけでキングダム(漫画)にハマりました。

三国志のちよつと前、秦の始皇帝が中華統一を果たす戦乱の時代を描いたもので、歴史の忠実な描写や魅力的なキャラクターで人気のある作品です。

(個人的にはワンピース、スラムダンク、動物のお医者さんに続く名作ではないかとさえ思っています。)

漫画を通してですが、歴史を知ることが新しい発見があるとともに、先人が成してくれたことを改めて認識するきっかけにもなります。

さて、今月の表紙の眼鏡橋。

その昔、飛び石しかなかった川に「永久不壊の石橋を」と造られました。諫早大水害では、その堅固さゆえに川がせき止められ、多くの被害を生み、河川改修のために爆破される予定でした。

しかし、当時の諫早市長が「50年後の孫子の代を考えるとれば市の象徴である眼鏡橋保存が大事」と各方面に働きかけ、現在の場所に重要文化財として移築保存されたのだとか。

今、確かに諫早の象徴となっている眼鏡橋。

この歴史を詳しく知りたいという方、図書館にある隠れ名作・歴史漫画「眼鏡橋」をおススメします。

(山本頁)